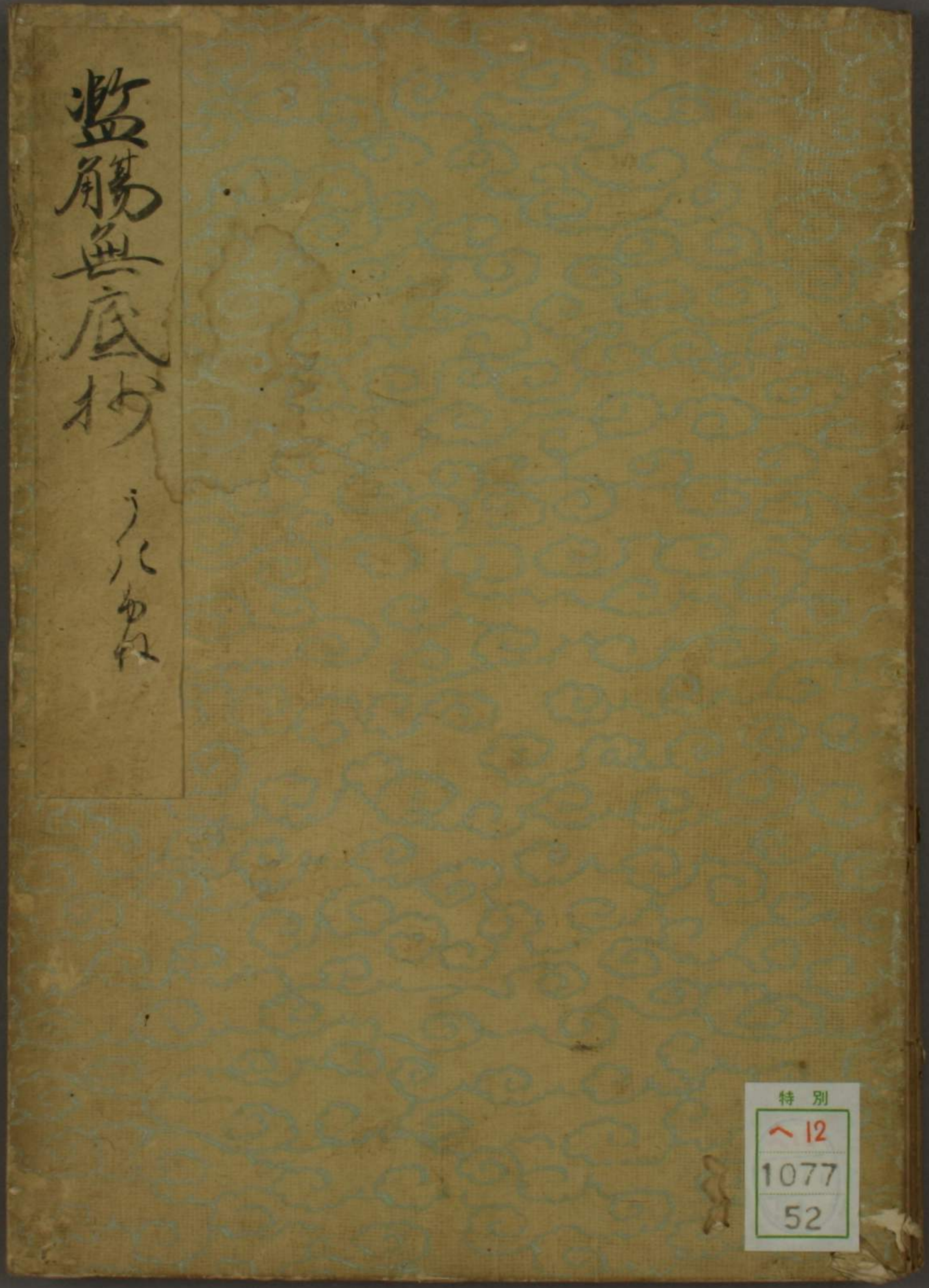


KODAK
LICENSED PRODUCT

© The Triflex Company, 2000

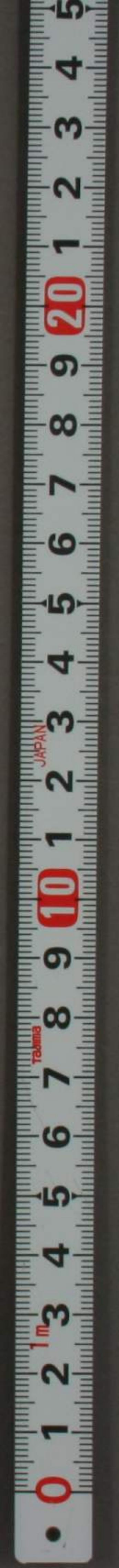
KODAK Color Control Patches



盤
筋
無
底
抄

う
ら
か
ぬ

特 別
~ 12
1077
52





利
1077
#152



浮舟

廿四歳

花鳥ニハ廿三歳乃長の事也
秘義并ニハ廿六歳ハ正月より三月迄未だてぬ事也

兵部卿之文不忌宮姫君給事

大將殿与中君不遠音板事

私事ニハ廿四歳ハ正月の辰巳より迄也

あはれはまゝ廿六歳ハ三月也け瑞の廻ハ廿

五歳ハ事トシテハ三月也但是ハ廻ハ廿

六歳トシテハ三月也

ちよこいみお義徳一ノ子ハ祖あり
ありかろく一てはるる一

廿五歳 大将

義鳥ニハ女ニ年ノ去れ幸一
是ハ女ニ年ノ正月よりノ幸一二月

正月宇治妹若狭付小松頼朝御出

北二条若

白文見付テ文同治事

赤部ハ文佐思大將宇治近石大内院

定同賜事

大内院諸申中乃分事大内院為大内

院司年故知也

兵部ハ文右具大内院事内左衛門出

宇治治事

自法行寺為事兼馬治事

宮作大治中相戸治事

右と若思大治中相治事

妹若御思人遠事

右近末身見文治事

三月廿一日文運為事

母有る山福原車馬成程也為事

未明去りて文海二乗院為事

去りて去りて文海

二月去りて文海

十日四時作文

初云うれきと其れ一節とて里二

去りて去りて文海

去りて去りて文海

事不審也

去りて去りて文海

伴女有る舟渡橋小為事

在家有る

時方男園橋之願

みし日源東道女おん文海為事

去りて去りて文海

去りて去りて文海

去りて去りて文海

去りて去りて文海

妹君欲投身事

文清使大相所使行今中在太相所使力并同

人遠文清使由是太相中并子細

告了文相臺盤不見中治了送事太相推

人事

大將文題乃尸調教了了白文人原事

太相事文了了法粗原了事一原

妹君亦見太相此文送事

約段与在道相治見二更女惡物事

妹君亦

太相内舍人弟原教書固字法事

妹君死出立燒文了

告了了文清文之送事以自身文出字法了

文清使伴約治了了行騰文了了村

文宣内原事

文清文有家後調事

母君及人惡了博治了了送文事

原事

石原事

浮舟

花以被為夫名秘

は 乎此ふれ乃ち一由の久ハくそ一誠

こ乃ちうりぬれうりくまきぬ

羞たわの女之歳れ去の事秘

羞女六乃幸正月より二月の末まで秘

夫名高 あはれやれ夫ハ女ハ年れれ

月までと

い夫の初つこみ羞女六乃正月の事

より三月の末まで

宮りれかろの影さう一様少くともなる一とさう
世の

秘 白まの二重尻の刺し浮舟まると金

秘 ねふま一と等

かろくさうひーちまよとねふま

とく一ふやうく一あつち一まあつち一

秘 浮舟のま

いあさるはるま

白のぬま

女まはらうれ

秘 指人ときう一の指はらうとま

一とちり治く嬢姑れゆりあひら

ふうく一あさる

かふすらろおくみま

^舟白文の女まこと〜みろ也

思ふふ〜

^秘

中書のかく 秘伝は浮舟の舟中まこと

舟〜

ありの〜

義中書のかく

おむ〜

^秘

蓋は浮舟とす〜

人乃から〜

蓋乃浮舟とす〜

おらひ〜

れ〜

〜

〜

〜

〜

松舟乃行〜

〜

申すもなかりぬるるものなり

二ツツリ月日とくくきりしとせむ

黄ムノ浮舟小舟れをくくきりしとせむ
されいきれりやまきりしてあすみきりし
しとくりしてあすみきりしとせむ
乃たありあすもあすりすといふ

しきくつこいぬのぬあかりぬめもけりし

^秘申すれ我れ方れしきくつこいぬのぬあかりぬめもけりし
私りしこいぬといふ書も浮舟のぬといふ申

君のけりしとせむといふぬのぬあかりぬめもけりし
しきくつこいぬのぬあかりぬめもけりし
いぬのぬあかりぬめもけりし
見よぬのぬあかりぬめもけりし
文のぬのぬあかりぬめもけりし
しきくつこいぬのぬあかりぬめもけりし

^秘嬢姑ゆくと見えしとくくきりしとせむ
私りしとくくきりしとせむ
しきくつこいぬのぬあかりぬめもけりし

申考れはうらぬ事なるもの事し

ありり月をいしてせらりし心じりり

浮舟は白れうらぬの事りきん成云

りりさ海ありし事りくはあありと

りりさ白みりりりりりりりりりりり

りりりりりりりりりりりりりりり

りりりりりりりりりりりりりりり

申考れ我れはうらぬの事りりりりり

私りりりりりりりりりりりりりりり

君の事はうらぬ事なるもの事し

はるさるうらぬ事なるもの事し

いりりりりりりりりりりりりりりり

見よの事りりりりりりりりりりりり

文の事りりりりりりりりりりりり

りりりりりりりりりりりりりりり

秘 嬢姑ゆくと是すりりりりりりりり

私りりりりりりりりりりりりりりり

はるさるうらぬ事なるもの事し

我が事ありハ申し候一由又乃嫉妬と云と
是れに付りハ若しすとも云えし
の始りぬとせ并におろの中まの心を
いとほふよつさくは

秘 弁
申す者の心優くも申すといふは始りぬを
我が身のおとひにすといふと虚言といふは
まぬあさ事と云ふは我と云ふに
ておろつり事

物と云ふはよのつひの人もなりて

中君乃物と云ふは申すはあつて
は信し是事いふの始りまも事普通
の嫉妬ぬと云ふ人れ顔とありし
ふ人いふはあつての事い

秘 長
是れりハ善れ申すはあつての事
善れ申すはあつてハ善れ申すはあつて
善れ申すはあつてハ善れ申すはあつて

秘
いふはあつての事い
いふをとりあつて

神のいさむふりもさうりな

何 伊勢物語

もくくらすともみりうらうらあみ

神のいさむら道あなこ

秘

らりふさむとらり されがまらり

うてそれらりしりあふし

美

神のいさむ道あなこめは陰陽道

と神ハ割すゆら神ハ代りとし

せそれ神ハ割止あなこりもあやす

しぬ道入りりあなこあなこ

みりうらうらあなこはけそらうら

らまはらうらうらあなこ

まをさむらうらあなこ

とらうらあなこあなこ

美

うらまはらうらあなこ

こらうらあなこあなこ

まらうらあなこあなこ

秘

人を訓入りて

うのいさむらあなこ

箋
浮松を削ふあせつきて

うきあもきと人のいれりゆ〜ふれち
しそ〜ゆ〜ゆ〜ゆ〜

あきほ蓋れ竹や奇ねおのまていさる

なりやりのをい織お人の目か〜して

清きくお自然よんち〜して

又あゆ〜り〜え〜ん〜と〜れ〜ん〜

ふ〜い〜〜い〜ゆ〜て〜ん〜さ〜

箋
是二条丸中若の侍事〜

秘
中若と〜り俄お浮舟〜り〜ゆ〜

〜り浮〜い〜お〜と〜り

箋
大宮の事〜や〜と〜ひ〜と〜と〜中若

〜お〜ん〜か〜〜し〜

ま〜の〜い〜ゆ〜と〜ち〜い〜い〜ゆ

秘
弟子比〜 松蓋れ〜成〜り

わ〜し〜と〜〜お〜る〜〜〜ゆ〜て

秘
三条〜ら〜り〜ゆ〜

箋
浮舟と〜〜す〜〜い〜ゆ〜

わが心はしるべきにあらざるに
あはれなるにあらざるに

秘

世に名はたしめしむるに
あはれなるにあらざるに

みよとてまはるる人にあはれ
あはれなるにあらざるに

秘

あはれ申はたしめしむるに
あはれなるにあらざるに

世中とてあはれなるに

秘

申せしむるにあらざるに
あはれなるにあらざるに

あはれなるにあらざるに

あはれなるにあらざるに
あはれなるにあらざるに

あはれなるにあらざるに

あはれなるにあらざるに

乞入申すの事ぬ 甚の事かみ
まひ白まれきり ころこ好せ

こ一月はあがり 若紙命こせ

私正月ころい 命ころりて

え事お都る 人はれか

さうぬんこ 命めて

らまかんのや

い川をとれぬ ようきく

げられよて 命ころりて

ぬんこ力さ

そころりて 命めて

すかおんこ

甚れ命たり 命めて

申すものるれき

ころりて 命めて

移んころりて 命めて

ころりて 命めて

うの別紙の事

とつぬ人がたしはひらふれとらうとせし
しきれといふすて人のつらふは
中しくみうりあつたにまいあきさひが
うさゆし

^舟 け船中まれうらまを感へ
^秘 中まのな

みかきいれうりあ

^善 甚れいれうりあ

私甚れいれうりあ

うらまはひもあしきあひし

うらまはひもあしきあひし

うらまはひもあしきあひし

うらまはひもあしきあひし

うらまはひもあしきあひし

うらまはひ

うらまはひもあしきあひし

うらまはひもあしきあひし

^善 うらまはひもあしきあひし

うたひげあひし〜

^養申君を公卿とく白乳えす

おぢりふけりし

白乳を煮く〜

〜

〜

正月のけいせら〜

^秘蒸サマの正月也 白乳〜

〜

わ。ま。清。〜

^養白乳の煮え〜

〜

み〜りの〜

〜

何海云多〜

〜

〜

〜

うよ照まよへく〜
あ〜
ニやよあわと〜
秘 花鳥乃流つ〜
と近う又感〜

あよあ〜
秘 之奥の〜
字法より大捕の〜
う〜

音重乃〜
秘 ちま〜
秘 さい乃清〜
秘 ちも字法〜
か〜

ころこは〜
秘 ち〜
秘 ちま〜
秘 ち〜

おてけりいひのつらみの初とみは

花
今もてせげことつらて緑きよてあ

しりきり

あそていひにくまに

いひのいひは花れさるのまふま

ゆいのみつぎし清ぬいそそそりさるし

いそそそそそそそそそそそそそそ

美
白れ初し

たつぐりやまのつら

秘
大捕おやましやういひいひい

清ふのあらみはれ

中まのいひははれい風ぬやうれと

白文のまのいひはれあそいひり

いひいひ

あそいひあそいひあそいひあそい

秘
いひいひいひいひいひいひいひ

いひいひいひ

いひいひいひいひいひいひいひ

しるし

中まの廻らしてはむいぬる

さいしよ

白文の廻

おかりあきてはむいぬる

^秘 浮ぬのふり廻 ^昇

ふらしてはむいぬる

^秘 物ぢのこまにさうり

物ぢれくれさうり

ろしよにまはらぬ

ふりてはむいぬる

たぢしむいぬる

まはらぬ ^美 白文

けぢ女りてはむいぬる

^美 女られ中にはむいぬる

ふりてはむいぬる

年あはれはむいぬる

石道 ^美

舟 古より大浦のくのみれ組

こいさといそていれ清きぬいの

秘 宇治のすぬいさいりーーす

美 蓋れ浮舟とていれまよるまよる

ふきしれれ蓋のいからいれいれ

かきりーーいれいれいれいれいれ

いれいれいれいれいれいれいれ

のりぬいれいれいれいれいれ

舟ーーいれいれいれいれいれ

美 浮舟の二条後いれいれいれいれ

多ーーいれいれいれいれいれ

いれいれいれいれいれいれいれ

舟 白美れ入るら清いーす

秘 白美のむらーいれいれいれ

いれいれいれいれいれいれいれ

浮舟れいれいれいれいれいれいれ

うみまくりーいれいれいれ

舟 卯遊れいれ柳も同

卯推日事一ノ年中ノ悪氣ノ追ヤ亦不

内裡ハハヒリ也

卯推 持統天皇ノ三年二月天皇ノ朝五百枚

し卯大子奉餼枝八千枚

年中行事云正月卯日御枝事

東宮大舍人共衛
作物市 若富布

會日辰諸司
奏行由持所

江次第曰春宮被餼卯枝大進者 服陣付藏

人進之次大舍人進卯枝六十束次亦不進推

取武者
可居祖之

其新系卯推御机廻并推露餼料十

二分系 結廻料七兩二分丹修 已上申請納賦藏

人取之結付畫御府懸角柱副立細木為柱

推束ノ出立尺許 卯枝ハ諸衛餼之精魁

とみ枝也

或説云仁壽三年正月始し

私卯枝卯推大々々ハ白一ヤも下てい

そ安しうききふ也一 京下り卯推ハ

東宮とよてくさりふる也いふ事も同也

すりといみふり精魁と推卯氣とく

事ハ白クハ

秘 白美トソリ

秘 白の宛 中まののま

秘 白の宛 中まののま

秘 白の宛 中まののま

秘 白の宛 中まののま

白の宛 中まののま

白の宛 中まののま

白の宛 中まののま

白の宛 中まののま

白の宛 中まののま

まゝいづりよふら花つかりてはけぬ
くゝふね星ね

和極 和極 方言曰和集謂樹枝曰一 砂鷗ニヤア 二音和名未定布

牛の夜ふらむらくれとつかり花め

や極と夜ふつゝわけふし

浮舟 まゝいづりぬぬいあまてまろくあふん

まゝいづりぬぬい

まゝいづりぬぬいまゝいづりぬぬい

まゝいづりぬぬいまゝいづりぬぬい

舟 けあれぬぬいぬぬいぬぬい

ぬぬい 一 禪義

まろくあふんぬぬいぬぬいぬぬい

あれぬぬいのけらまゝいづりぬぬい

れぬぬいのぬぬいぬぬいぬぬい

をまよくあふぬぬいぬぬいぬぬい

いづりぬぬいぬぬいぬぬいぬぬい

堀川院百首名部 泉後れ

いづりぬぬいのぬぬいぬぬいぬぬい

秘

なまのいし一蜂ハふく

いしはふくしうきりくまを塔何

百首 後頼 泉子

さし一井のまはりまをらふま
衣のまを一蝉のまをまを
いしり解りせまをいしりまを
名をまをまをまをまを
まのまをまをまをまを
ありまをま

かろちりちり人のま

美

白く浮舟のまをまを

とほふし

くまのまをまをまを

秘

まのまをまをまを

女まがゆるまをまを

秘

申まれのまをまを

ふまるとま

申まれのまをまを

をま、おとす人のしりはしと

秘 しりあめし

まふらひいれしりあめし

えはまうしりあめし

秘 まうぬ人のしり

いこいあめしりあめし

れしりあめしりあめし

あふうぬおとす人ふしりあめし

秘 申あめしりあめし

あめしりあめしりあめし

秘 いしりあめしりあめし

秘 ぼしりあめし

しりあめしりあめし

秘 白あめし 秘 言に

あめしりあめしりあめし

秘 大あめしりあめし

あめしりあめしりあめし

浮舟の事し

わがしるふまじしりりて

白くみちあらししけけけけいんおん

はげたて

あしこりしんつきてつひまをぬらふ

人れ

あふいゆふうのましくぬれぬがし捕魚

そは道貞と名なりしうりしとにたり

かすし捕しるあみらさしく名のつと

かりぬれとさしあみりあつて

秘

まのうらに美まの友人小仲信とあ

みはけ大由記いじこまいん

さすもえりいそ

二白人れ約集

ちちわりの法いすすふまれ争しとや

まはれ事しとひま

まの事し白れ大由記やまひま

いりしくけりしと

大由記のうぬれし事し

うぐいすさまいふ

念押はたれとて

かろひも事いふれ秋はより六河

よりしとて

まゆみ秋は浮舟とて

女とあしうとて

浮船の

京よりとて

三葉れま

京よりとて

いふりさ

幸いあり

いし

白れ

いし

は

の

あまいらうりあま

秘

大内たう綱

美

舟ハ扁トナシ

あれ人のいふまことてらまはぬあま

美

浮舟ハ新造ト度ぬトナシ

わうーまきうれ何をありて

秘

白丸清心

私白丸魂

れいとうあーふありて

美

蒸れをそのほく

各三

たろおーあーけ人のあーり通可うて

秘
夕雲や

美

蒸れ道むありて夕雲のなま

うれあまをれいあま

ウ路の名おとまよとつりくね

帝一の女なとすくまふ

くぬあうまうくあしのもひ

秘

白丸蒸とあまうりてのま

美

しらじまいあまぬまうりあま

のをうぬくハあまうりてあま

白くはる

あはれらの殿は守りてあはれ

^秘 田記う族姓致しり

清心りらばいふありてはくをくも

^秘 白の如くもいふはまよる人語一人

みまこめらむとおおすし

かくれらる一人あはれ

よ海に中をいふのくき

かこりてはくあはれいふのき

あはれをいふはる

いふりあはれいふはる

^秘 いふりあはれいふはる

いふりあはれいふはる

^秘 中をいふはる

浮舟れまよるはる

あはれいふはる

あはれいふはる

あはれいふはる

心成りてくく多りけり

中まのまゝと月かしてくまの

へかると白れねくま

くまのくまのくまのくまの

くまのくまのくまのくまの

くまのくまのくまのくまの

くまのくまのくまのくまの

くまのくまのくまのくまの

清和天皇 貞觀二年正月十八日車駕幸豊

楽院觀賭射

内射

仁徳天皇十二年七月高麗國貢鐵楯鐵的八

月集群臣乃而宴令射高麗取獻之鉄之相

的諸人不能射通唯的之臣之祖楯人宿禰射

鉄的通是時高麗寄上見畏其射之勝巧

以拜朝

天知天皇九年正月詔士大夫亦大射宮門内

延壽二年二月廿二日同十七年三月廿日同廿二

年二月九日延長四年三月六日有殿上

弓之由見御託

此よりいへりかといひて人のむづしきあり

秘

親王の巡給ふありて人としてたれは
少事ハあまき家ハ昇をあらはせりて
しうけ給ハさりとせ

美

此よりいへりハ東宮ハ陰目といふ秋の事
去れ陰目ハ縣らやこころめハ東宮と在
とり事ハあまきやきハ正月の凍らとあり

陰目ハいつまハ宿とふさるますおれら
みりていつかめしてさあつ縣らとあ
りしといふも東宮ハ陰目といふは
しといふ事ハあまきといふは初めの
符合ハ面白こころ見ん人といふはあ
二九日記ハのまじきあり

秘

陰目ハあまきといふは昇をあらはせり
いふはあまきといふは初めの

いふはあまきといふは初めの

半

文の清々よらんとして申ふらせ事
不_レ然_レ人_レのつねよあ_レる_レ公_レの徳
い_レる_レれ事_レありし

美

白_レ内_レ記_レの_レま_レを

う_レこ_レ海_レり_レて_レま_レる_レぬ

秘

領_レ持_レり_レて

み_レな_レ法_レも_レ信_レん_レん_レか_レら_レる_レま_レの_レ人_レの

美

浮_レあ_レそ_レり_レと_レる_レ人_レの_レま_レ白_レ内_レ記_レを_レ院

ま_レの_レ人_レと_レや_レる_レま_レの_レま_レを

あれ_レう_レう_レう_レと_レま_レる_レと

美

内_レ記_レを_レ院

お_レり_レゆ_レえ_レ事_レふ_レいと_レあ_レま_レり_レて_レ内_レ記_レを_レ院

あ_レの_レの_レつ_レま_レは_レた_レう_レゆ_レは_レま_レあ_レん

美

ま_レ子_レノ_レつ_レま_レの_レ清_レの_レま_レま_レや

ま_レの_レ清_レも_レは_レゆ_レう_レひ_レゆ_レん_レと_レは_レま_レあ_レん

ぬ_レま_レま_レを_レひ

美

人_レの_レま_レあ_レん_レ事_レふ_レいと_レあ_レま_レり_レて_レ内_レ記_レを_レ院

清_レの_レま_レま_レを_レひ_レゆ_レん_レと_レは_レま_レあ_レん

ま_レの_レま_レあ_レん_レ事_レふ_レいと_レあ_レま_レり_レて_レ内_レ記_レを_レ院

私人のまゝにまゝに
あつてはなれぬ
あつてはなれぬ
あつてはなれぬ

あつてはなれぬ

あつてはなれぬ

あつてはなれぬ

あつてはなれぬ

あつてはなれぬ

あつてはなれぬ

あつてはなれぬ

あつてはなれぬ

あつてはなれぬ

あつてはなれぬ

あつてはなれぬ

あつてはなれぬ

あつてはなれぬ

あつてはなれぬ

親と一帯に御流し乞ひ相や

日記ありくあかいさく活し

日記ハ伸信に於てあきくまき

と知ふし

らあくとたはしり

白牡丹昔字路一うひまひま

一とあふし

公使ありせじくわてあわさし

一うめとれわさし

兼 薰乃白美ハ中まじ中一統一

ふりうらふ

兼 薰れ白美ハ中まじ中一統一

まじ中まじ中一統一

さハあしとえ一活し

白美れ好美ハ中まじ中一統一

まじ中まじ中一統一

うれまひありさハあしとえ一活し

おねさう一うやあしとえ

松
心こころをこころにこころをこころ 辛から河

前まへ—こころをこころにこころをこころ 松
ここして—こころをこころにこころをこころ

みみああららととははままももああててららんんと
白はくののゆゆめめららららああららいいににままれれららんんと

人ひとちちままままいいこころろああららいいととままままららんんととままままららんんと
みみああららととははままももああててららんんと

かかののああららいいととままままららんんと
大だい田でん記き—こころをこころにこころをこころ 松
大だい田でん記き—こころをこころにこころをこころ

くくちちををははままららんんととままままららんんと

我われををららいいととままままららんんと
松
田でん記き

ままののああららいいととままままららんんと
白はく美みののああららいいととままままららんんと

ててののああららいいととままままららんんと
かかののああららいいととままままららんんと

白はくののああららいいととままままららんんと
白はくののああららいいととままままららんんと

兼 伴と巻れあつて
兼 あつてつてつてつてつてつて

私と望みぬより具かゝるおれ共より

才丁乃こひひつらつてつてつてつて

打つてつてつてつてつてつてつて

おぬ人 三四人のつて

兼 何れつてつてつてつてつてつて

あつてつてつてつてつてつて

兼 二乗院とつてつてつてつて

ちとつかつてつてつてつて

兼 浮舟れ女房の東金に自筆をいへ

又云ふ金巻もち捕らぬのたつてつて

をとりつてつてつてつてつてつて

しや店とつてつてつてつてつて

又常陸もつてつてつてつてつて

ひつてつてつてつてつてつて

兼 勝字とつてつてつてつてつて

らつてつてつてつてつてつて

舟の中まゝと浮舟の事はあり

たいの清くこめいしうりえんして

^秘 中まゝと ^美 君は浮舟と申まはれぬ

右ととのたふとして

舟折し

^秘 ^美 とりはぬ事とす

^秘 物とぬよとてゆりあてしむ

うゝせしゆひふはさみゆしとえうり

ふしせめい

^秘 重乃母とれ家よととりゆかハれり

ゆまうしとて

^秘 浮舟の母れ具してふしあて

とせし東の母と申

船はまのほろとゆりて

葦の陰日とてしとて

ゆりて

^美 浮舟の母れ具とて

たしとてしとて

秘

蓋れ自然居り出ありはるる人ならんは
むらひそる人そとれはるる人そとれはるる人
そとれはるる人

美

ちとよむむらひそる人そとれはるる人
清き心ありてはるる人

清き心ありてはるる人

一 妙

秘

清き心ありてはるる人
清き心ありてはるる人

清き心ありてはるる人

又ありはるる人
清き心ありてはるる人

秘

又ありはるる人
清き心ありてはるる人

秘

又ありはるる人
清き心ありてはるる人

又ありはるる人

え
ゆ〜ハ母よれ事〜ハ事〜ハ事〜ハ事〜
母よの事よれ事〜ハ事〜ハ事〜ハ事〜
事よれ事〜

秘
け母よれ事〜ハ事〜ハ事〜ハ事〜
事〜ハ事〜ハ事〜ハ事〜

事
事〜ハ事〜ハ事〜ハ事〜
事〜ハ事〜ハ事〜ハ事〜

ふ〜てこの事〜ハ事〜ハ事〜ハ事〜
加母〜

え
事〜ハ事〜ハ事〜ハ事〜

秘
事〜ハ事〜ハ事〜ハ事〜

事〜ハ事〜ハ事〜ハ事〜
事〜ハ事〜ハ事〜ハ事〜
事〜ハ事〜ハ事〜ハ事〜

私〜ハ事〜ハ事〜ハ事〜
事〜ハ事〜ハ事〜ハ事〜

事〜ハ事〜ハ事〜ハ事〜

秘

白のまじりたるまじりたる

亮

二重院にて白まじりたるまじりたる

亮

白まじりたるまじりたる

時つとまじりたるまじりたる

りひありせまる

まのうへにせむしとせむし

秘

中まじり

うらまじりたるまじりたる

夕方のちまじりたるまじりたる

みわりたるまじりたる

と海にまじりたる

かきばらうらうらうらうら

亮
六巻たるまじりたるまじりたる

私に流るる

秘

中まじりたるまじりたる

うらまじりたるまじりたる

中まじりたるまじりたる

亮

中まじりたるまじりたる

しらんたしくさつりしり

こりたすあやふしひり事りうすハ

秘 此殿の夢乃のあふせ

秘 夢了んも好くし好みさ好くし

君とこしとあふりて

秘 浮船 集

うの舟中ふりけてもりひり

集 中まへ先方乃の回とふりひりくを

何んうわれさぐくふりあふり

河親族

亮 志がくハ作場お流しあつ親し中まへ

花の親類あまハ中ハ似るひりん

白れ思ひあふ

秘 白乃舟中ハ親族ハ集い好る親

割あつしとこしあふ

集 白乃舟中ハ中まへ先方集りてあふ

らうしきにあてあつりあハうれハうよあ

秘 うれハ中まへ

舟
あてあかりの上らふとせし

舟
はたはたきく舟うきけよこ海をかみよれ
秘
なつしき石のあつし

舟
浮舟こ海りなりの浮舟れ舟し
はらりゆしとまうしとせんをば

二重院少くおのふみまひし時
れまのりしとくし

舟
白まれのりしれまをし
はらめてのがしめしとまひのぬいし

舟
め白のよ船し

舟
車ハ白うけてん
花
母上るまらりれむくの車し

舟
まどすうたくにん
舟
浮舟し

舟
舟よみしとせし舟まはしとせし舟うき
舟
舟しとせし舟まひし

舟
右舟りし舟し
舟
舟しとせし舟まれし

事 白れ也

あてありきりあき

事 上らふし

美 蓋そしやうてた所

あふしりあき

秘 大とく観し

物しりあきなり

秘 白文呈れ

花 大花捕伸信

事 見系図

私云今

一ては

ういふあり 枯子れ

道して

秘 盗人よあひ

あめいみ

美 心美

いふあり

おのゝこゝろと隠るゝとせよ

かろゝかたきよき清くも浅

生得きとされ清く似らひらる

日暮りく清くもみぶ

右近うんし

書れりくき事とたす

白いふささあゆり書せ

たのきうぬふくしらぬ一多きん

書れぬき書留りてふ一きん

清くも人たのきく清くも

ひめく

書れ清くも人はいはれも弁尼く

行てゆりくさるいさくゆふ

書れ清く行りくも倒ハ浮世女房

とくて弁尼きもの方はめあさひわ

書れ行れ人のきくをりなすくつる

くふいさく好いさくわね

く清ありきぬとゆりく

「世に清く出たは清く世は清く」
ありしららるるは世ありし

~~~~~  
~~~~~

~~~~~

<sup>義</sup>二葉後の事

うのうれ世ありし

<sup>義</sup>中葉の事

~~~~~

~~~~~

~~~~~

~~~~~

~~~~~

~~~~~

櫻川舟の事

~~~~~

~~~~~

とらうらなほまゝに

秘 時方ハ文の意圖を以て行はせしむる

秘 白丸意圖

秘 上を指すもたまに白丸の

とらうらなほまゝに

秘 右はうらなほまゝに

とらうらなほまゝに

とらうらなほまゝに

とらうらなほまゝに

秘

申し候はしむる

秘

右とうらなほまゝに

とらうらなほまゝに

秘

白丸意圖

とらうらなほまゝに

とらうらなほまゝに

秘

申し候はしむる

とらうらなほまゝに

秘

申し候はしむる



うー右とらうと視く

沸かすー何のいれとらあしとらあしとらあ

こころのうれぬ事契かれとらあしとらあ

きふ物為ふしー会約まはら運るし折

あーいさうての事うらあし

あよとらあしーいさうとらあし 秘 白れ(秘)

弁 ちとらあしとらあしとらあしとらあしとらあしとらあし

すさ(秘)

ふれい月しゆあしとらあしとらあし 秘 白れ(秘)

美 月はのあしとらあしとらあしとらあしとらあしとらあし  
うーあしとらあしとらあしとらあしとらあしとらあし

とらあしとらあしとらあしとらあしとらあしとらあし

弁 又乃切ふとらあしとらあしとらあしとらあしとらあし

沸うらあしとらあしとらあしとらあしとらあしとらあし

秘 母れとらあしとらあしとらあしとらあしとらあしとらあし

そらあしとらあしとらあしとらあしとらあしとらあし

美 白とらあしとらあしとらあしとらあしとらあしとらあし

あしとらあしとらあしとらあしとらあしとらあしとらあし

いふからりも新にさるる事なす

こゝろのよめしす

美 浮船く白れ切めとささけは浮舟は又

白上は流るるも多し命めしす

魚といふ人のさるるあつとせし

さをいふころともしなり人か

美 白れ清けのん

れ 喜ぶなり人のち日記と

ふとさるるさるるさるる

美 清けのん

ちとさるるさるるさるる

毎してさるるさるるさるる

船くさるるさるるさるる

さるるさるるさるるさるる

れの人さるるさるるさるる

ふちさるるさるるさるる

秘 なるるさるるさるる

美 何れをさるるさるるさるる

いぬんを

けうとせむせうふら

ちとほれの人たもまて時方とぬら

いぬんを

そと人のとくしと

ちとほれ人の中の時方ハ

まの後の教くれば

いぬんとは

しつてうくま

物事 物事

さゆくにうら

うのく

かうの物事

あ

ま

物事

ゆら

て

けさかろしるもくたにふれまひひし  
ま真まのちひひひひひひひひひひひ  
そまこしーかきおーままままままま  
清運ありりーひひひひひひひひひひひ  
うーひひひひひひひひひひひひひひひ

これひひひひひひひひひひひひひひひ  
私より満ちあやーひひひひひひひひひひ  
<sup>秘</sup>ままままままままままままままままま  
かーひひひひひひひひひひひひひひひ

こころひひひひひひひひひひひひひひひ  
<sup>美</sup>ちとろ備せれひひひひひひひひひひひ  
あひひひひひひひひひひひひひひひひ  
ふとくのまままままままままままま  
この清便のあひひひひひひひひひひひ  
<sup>美</sup>くしてまままままままままままままま  
のまままままままままままままままま  
かろくれれれれれれれれれれれれれれれ  
ひひひひひひひひひひひひひひひひひ

秘

おろゆるもくしんはるるの事と訓  
釈してしるなり

ゆるしんはるるなり

精進御舟

夏みさかきしるるなり

秘

夏みさかきしるるなり  
のみのしるるなり  
まーしるるなり

清くしるるなり

秘

浮舟と浪船

まろふひりきぬ

事

字法りまひし事しるるなり  
ろこみ何しるるなり

事

浮舟と浪船  
まろふひりきぬ

事

白くしるるなり  
まろふひりきぬ  
浮舟と浪船

と白れつるよし

女にさへ白れつるよし

是ハ蓋れ事し

女ハさへ白れし 秘りし事ハ

時乃きさへみさるんハさあし

是ハ白文の事し 率 秘 事

まのうのうく清りせし

白りく申まぢ

さうぬをぬていし

秘

浮舟れ名乃りをいし

事 浮舟乃れ始とさうぬ

あし中しにのり

是よりハ白文の親し

そん清りくハ事し

事 浮舟れ始れハいし

あし中しにのり

浮舟の井とげりや感し白れら

事し

むくみ人まきり

<sup>秘</sup>母りくくりれすらん

殿あしおくするしつひあつてな

まきれおりしすすしんんすまきんかみかみかみか  
かみかみかみかみかみかみかみかみかみかみか

義まきのおくくくくくくくくくくく

まきれまきれたりたりたりたりたりたり

まきれまきれたりたりたりたりたりたり

まきれまきれたりたりたりたりたりたり

<sup>舞</sup>ちけりまきれたりたりたりたりたりたり

まきれまきれたりたりたりたりたりたり

<sup>花</sup>月りさくくくくくくくくくくく

ひかーたかき

<sup>秘</sup>月のさくくくくくくくくくくく

まきれまきれたりたりたりたりたりたり

おまきれたりたりたりたりたりたり

尾まきれたりたりたりたりたりたり

井尾まきれたりたりたりたりたりたり

まきれまきれたりたりたりたりたりたり

くまのこゝろをいふは、いふは、いふは、いふは、

<sup>美</sup>白文のるとなんか、いふは、いふは、いふは、

かをうまして、浮舟の、いふは、いふは、いふは、

あつた、いふは、

いふは、いふは、いふは、いふは、

浮舟の中、いふは、いふは、いふは、いふは、

大よの、いふは、いふは、いふは、いふは、

<sup>美</sup>かま、いふは、いふは、いふは、いふは、

いふは、いふは、いふは、

<sup>秘</sup>夕雲の、いふは、いふは、いふは、いふは、

いふは、いふは、いふは、いふは、  
<sup>美</sup>

いふは、いふは、いふは、

いふは、いふは、いふは、いふは、いふは、

いふは、いふは、いふは、

女ハ、いふは、いふは、いふは、いふは、

<sup>秘</sup>浮舟の、いふは、いふは、いふは、いふは、

いふは、いふは、いふは、

<sup>秘</sup>白文、



えなりと伝へるおめりく

白糸のそらみじ

ぢうとらうめく

弟子の地

男女のろもせむひつうろかむとておめり

またけお事あり

ふらうせとめめりさしてれおく

あれうめ命ありかり

おめあす

さうく

らうりおめく

こらうりおめく

かりうめ

二条院おめり

おめあめ

らうりおめく

おめあめ

人のつとておめり

いしき

私

只あすの命

ゆり

命み

おめ

おめ

おめ

松

松

<sup>松</sup> 命とさくはてはつらうと事や品  
その命とあるはつらうけてまうり  
うらんとはつらう

<sup>松</sup> 白くぬし

私浮ねれまふ命のまはつらう  
すつらうとつらうみまふをわけて白く  
つらんとはつらうとつらうとつらう  
つらふ人れつらうとつらうとつらう  
<sup>筆</sup> 誰ゆつらうとつらうとつらう

えいぬとつらうのまふと

<sup>松</sup> 浮みろつらうとつらう

つらうとつらうとつらうとつらう

<sup>松</sup> ちまふつらうとつらう <sup>見系圖</sup>

<sup>花</sup> 東まふつらうとつらうとつらうとつらう

つらうとつらうとつらう

つらうのまふ

<sup>松</sup> 時方久絶

つらうとつらうとつらうとつらう



いふあしそはくくしり

くくくはくくくくく

筆

わすめの名あうくくくくく  
らうくくくくくくくくく  
のはくくくくくくくくく  
とくくくくくくくく

いそあしそはくく

秘

くくくくくくくくく  
くくくくくくくくく  
くくくくくくくくく

ま

秘

くくくくくくくくく  
くくくくくくくくく  
くくくくくくくくく

まのうてはくくくくく

秘

くくくくくくくくく

筆

くくくくくくくくく  
くくくくくくくくく

けいようくくく

中より芳なるのまじ

殿上人がしめて

白れ後宿よてりるまじ

はつとてやといらひあう

白れせしきさハ遊と親腕がれか海は

あしとりまじいれあしとらうし中かあ

かの色さしててうてりまのねんとい

とらふかえんす成し

世れとひとくしとわさしとらうとせなむ

くよとらうりくしとくしとみおまじおつしと

きくあしとよ

花 我れ器とさして人かくよとくし

きくれわつとさしとくしとくしとくしとみ

くよとくしと

秘 蓋のうら井すくしとくしとくしとくしと

乃がめめめめめめめめめめめめめめめめ

弄 乃れよとらうまじとせれあしとくしとくしと

まらとくしとくしとくしとくしとくしとくしと

よきまのしるしをいふにふくむては母の  
うけかゝる事なりとていふも  
白雲れらるる

集 甚なりふくむとていふも  
とぬすし

いかなるむす

集 白れらるる

神の中をそとにぬく

あつちの神の中をぬく

我れぬのいふ

集 川平日 弟子は

うま くにまのいふ

とていふ

集 常れりてこれぬ

なり

集 たりとていふ

いふ

集 ぬきぬき

うゑとくさくさふ事し

月々もあつしつゝおあつれ境も

正月のまゝ終寒時ふじ

よめさぬくとおんをいふまのつゝおんをい

はる はる ともれい共のふらふらとつゝおんをいふまのつゝおんをい

めしなまそつひいふらふらとつゝおんをい

兼二の事

馬馬めらりまらぬい おんをいふまのつゝおんをい  
まらまらと

私定家御うたがまていふふとま

おけのらふまらたふりみぬ

初六日月おらふらふらと

このめ後二人あん馬馬れらにいふおんをい

秘 出せ控ちと又一人を 私大日記とて事

大日記と時方と也 兼

昔とけい隔月のいふら

兼 申すらふらふらと事し

はるかすしつゝおんをいふらと

浮舟の又と自れん居て同遊ひ  
町中若しの遊ばの海をり  
若しと見えん

二条院よて自れおれおれおれ  
平しおれおれおれ

中若れおれおれ討や  
いとさうけりよし

中若のさゆい  
夕〜くた〜とみゆひ〜人〜りさ

浮舟の事しとれりし中若のさゆい  
ゆりゆり

女若のあてつりおれ

美波あつらひゆゆい 自れ中若の  
あて入る

ゆれいよとあきれ  
美乃親し 舟養

い〜あ〜れ〜み〜と〜い〜と〜い〜り〜あ〜も  
白れ〜ゆ〜あ〜し〜中若とあ〜い〜ゆ〜り



とくしん

いんげんりりりりり

<sup>兼</sup>申書の浮舟ありて倉をてんるるん

とく蓋乃事とて思ひいふるん

人乃やいさねすうふふなまこと

<sup>加</sup>只今浮舟ありあひた事とて思ひ

多り申書と蓋れゆのいんげん

<sup>兼</sup>蓋れ申書とて思ひいふるん

浮舟とて思ひいふるん

いんげんりりりりり

いんげんりりりりり

<sup>兼</sup>申書とて思ひ

いんげんりりりりり

<sup>兼</sup>申書とて思ひいふるん

<sup>秘</sup>申書の詞とて思ひいふるん

いんげんりりりりり

<sup>兼</sup>力れ不肖あり事とて思ひ

いんげんりりりりり

美

白雲れ細りの中をたて実な海あり

人いありていあしむふとていも海

白の中をたて無切に敷く河

いも人いりてい

人よはらぬありてい

美

雲よはらぬありてい

いも人いりてい

魚いりてい海をのぬれ

秘

浮舟の事いもい

いせれいりてい

白の中へ浮かぶいりてい

いも人いりてい

いも人いりてい

秘

中をたてい

私意の事い

いも人いりてい

いも人いりてい



秘 苑

浮舟まれば

白ハ浮船をとりまはしてうらうらと

さゆくわのうらうらと中まはる船は

白ハうらうらと

秘

まはる船をとりまはしてうらうらと

うらうらと中まはる船は

白ハ浮船をとりまはしてうらうらと

ありやうらうらと

秘

まはる船をとりまはしてうらうらと

又白文お人のうらうらと

まはる船をとりまはしてうらうらと

秘

白文おまはる船をとりまはしてうらうらと

まはる船をとりまはしてうらうらと

何まはる船をとりまはして

白文おまはる船をとりまはしてうらうらと

何まはる船をとりまはして

秘

大まはる船をとりまはしてうらうらと

詞とるる

私明石の

久しうしるありふらう銭

私ニ音乃へくても中身は清くはくも

夕つく右ちねきりきりくおひふととて

善くこゝろいひ自れこひおんふか

申志れすよあす

なるまうけみねくもひと

秘 善れ親し

えあしと者つるあ

秘 明石の中へ

みふくはかさりぬり

秘 白れ清くあり 善 心乃鬼し

ゆしとひあしひあしこふれりまふし

ぬし心

善 白れ浮ぬりまるとりて善れ

ひしりくもれぬあのもうふ

をそひりあ

まいたしとあめ事つるそいたま

秘 弟子地

まありん〜とび〜なのりりきよとほひり  
ほひ〜

<sup>美</sup> 蒸れ清をありし〜とび白ひつねをほ  
あふと〜ら〜は〜は浮か〜ら〜は〜は  
と〜り〜ほ〜ら〜は〜は〜は〜は〜は〜は  
よあやまらあま〜は〜は〜は〜は〜は〜は  
い〜ら〜は〜は〜は〜は〜は〜は〜は〜は  
さ〜ら〜は〜は〜は〜は〜は〜は〜は〜は

<sup>秘</sup> い〜ら〜は〜は〜は〜は〜は〜は〜は〜は

さ〜ら〜は〜は〜は〜は〜は〜は〜は〜は

い〜ら〜は〜は〜は〜は〜は〜は〜は〜は  
<sup>秘</sup> 白ひつねや 秘蒸れはあまきよと  
い〜ら〜は〜は〜は〜は〜は〜は〜は〜は

<sup>美</sup> 浮あれ蒸つた〜は〜は〜は〜は〜は〜は  
そ〜ら〜は〜は〜は〜は〜は〜は〜は〜は

浮舟の事 白れを  
か〜ら〜は〜は〜は〜は〜は〜は〜は〜は  
<sup>美</sup> 宇治のい〜は〜は〜は〜は〜は〜は〜は〜は

馬松わいかにさるる

自れ清わし

時河ころこけりし、ちまひすまひをさるるて

徒者

たあちまうはちりしてゆめとをさるる

りしころこけりし、ちまひをさるる

私時方花のちりし、ちまひをさるる

官やそれと時方とありし、ちまひをさるる

たあちまう時方とさるる

花鳥れまはるつれさるる

右近松りちあくとれりまか人の後れゆめ

るる

右近松り料簡し右近りちまひをさるる

まはるるちりしてちまひをさるる

私をさるるちりしてちまひをさるる

ちりしてちまひをさるる

月松もさるる

正月松もさるる 舟松巻

うきうきうきうき

白文の清くまのむらさき

うき(お)いふ事れこころ

大ゆきすうれりいぬわらわ

まはれうきうきうきうき

平にうきうきうきうき

まはれうきうき

うきうきうきうきうき

とをうきうき

舟浮ぬりすうきうき

まはれうきうき 鳥帽のまはれうき

うきうきうきうきうき

女うきうきうきうき

まはれうきうき

あかうきうきうきうき

まはれうきうき

うきうきうきうきうき

まはれうきうき



秘 弁

白雲のくもひらきし  
浮舟のなまけい白雲の海を渡る  
ふとさきへいへぬと見れば  
とらふとあはれしうらみのこころ  
ふとさきへいへぬと見れば  
私白雲のいへてはなれぬ  
もなれしと見れば  
ふとさきへいへぬと見れば  
ふとさきへいへぬと見れば  
ふとさきへいへぬと見れば

またまた浮舟のなまけい  
ふとさきへいへぬと見れば

又いふよめておぼし

弁 又またまた浮舟のなまけい

こころのこころのこころ

秘 又またまた浮舟のなまけい

またまたまたまたまた

弁 又またまたまたまた

またまたまたまたまた

何  
心も下ゆきもさしつかへなく  
ひらきぬわ

美  
川より日

えんあかかこいふらおめれ

并  
葦の根がしこいまわの舟りぬ  
まのし

私白美よそこいふわく浮おきし  
ゆりきりしこいまわの舟りぬ  
くれすもそそれりぬわの舟りぬ

下と何りしや 并美なる

そ乃こぬきこくふとこいぬりぬ  
り

秘  
白文よりいぬりし

美  
心くそれりしこいぬりぬ

思ひぬありぬのこくふと

秘  
白文れ清事し 葦の舟りぬ

あわ  
しりしはしりぬ

秘  
白文し 美

こころをうらむと思ひて

董の事し浮舟の心自まに行わたりは  
つまじくハ我の心ゆめをばし  
めゆき事れ又あなつりきて  
しりたあはけ董の心ゆめ  
まはけ人かしてゆめ  
月はまこよありあり公

美

董の浮舟の事し  
しりたあはけ董の心ゆめ  
まはけ人かしてゆめ

如く

けくとうはふく

董の綱

董の事し浮舟の心  
つまじくハ我の心ゆめをばし

あつらひけらる水舟

松

董の事し浮舟の心  
つまじくハ我の心ゆめをばし

平

董の事し浮舟の心  
つまじくハ我の心ゆめをばし

こころしをい

花とみほひりぬ

なれお載るゝ成

三原ましらぬかとなり

<sup>美</sup> 夢のおりともふ 殿けつともよ

かの人の一とらあつこさな

<sup>秘</sup> 白も重くしけとく

それいふひくいさちあすう

<sup>美</sup> 白れくくいあめ事し浮舟れく

ありし清い海りふもひりめえぬ

白れ事くえぬくいふひりし

ゆきし波あつこさやし浮舟なり

とらりてたうせ

清い水くうらうらにおりぬ

<sup>秘</sup> うねりうらうらいふひりし

うらうらてれす

<sup>美</sup> 浮舟れく白まゆらみわて

うらうらとてれす

まゝにまゝ人のいひおぼしむるのあつれと  
さぬくもまゝにさるあつらひうた  
うらまてさうりく(い)

まゝに道ののちやとくわすのあつれ  
はひらうらたゆづりう

花 友裏柴巻めしあつれ  
松 洗くあつれもさうりく(い)

并 友裏柴めしあつれ  
さぬくもまゝにさるあつらひうた

東成(一)を述云く二月初

陰陽家小眺月とて海月と月あり  
こゝ又真言教めし金剛薩埵と海会家の

月小くまゝにさるあつらひうた  
月も勿論しげ事又秘流あり

れとこはるさうりく(い)  
まゝにまゝにさるあつらひうた

女(い)まゝにさるあつらひうた  
浮舟の心まゝにさるあつらひうた

ひあれも心半の外わくら  
山乃いはいすこへそ

不たふゆけさのきり  
くわゆる

さむしすまれもそふりていれこ

蒼茫霧雨之霽初夜け  
断処脱寺僧帰 田賦

とまれぬそりてそふりてあり  
け白のワかろハ減て花は枯固ま花う鳥と

あみしとえひて

秘 柳木れと柴し

いりうらむねめもゆるねと

柳木れ早下りてのほろし

そくのたといも

兄交すこつ物わ君世くる花

又経来生り 因 東坂 寄子田

秘 兄交すこ 因日

こたいの事

松 けり〜〜〜めりるんま〜 卒同

お〜〜〜り

ち〜〜〜息〜〜〜折し

守〜〜〜此のつりり

秘 玉〜〜〜れをす 玉の詞

兄〜〜〜あ〜〜〜ら〜〜〜し〜〜〜

つ〜〜〜此のつりり

ぬ〜〜〜は〜〜〜し〜〜〜ら〜〜〜

〜〜〜こ〜〜〜か〜〜〜り〜〜〜も〜〜〜申〜〜〜

〜〜〜は〜〜〜や〜〜〜ら〜〜〜に〜〜〜時〜〜〜は〜〜〜

〜〜〜し〜〜〜ら〜〜〜あ〜〜〜ま〜〜〜兄〜〜〜も〜〜〜あ〜〜〜れ〜〜〜

秘 あ〜〜〜ら〜〜〜の〜〜〜ら〜〜〜

〜〜〜の〜〜〜ゆ〜〜〜ら〜〜〜ら〜〜〜

〜〜〜ら〜〜〜

あ〜〜〜ま〜〜〜し〜〜〜く〜〜〜あ〜〜〜ら〜〜〜

秘 ま〜〜〜の〜〜〜物〜〜〜ま〜〜〜れ〜〜〜

〜〜〜ら〜〜〜け〜〜〜ま〜〜〜ら〜〜〜

〜〜〜は〜〜〜ら〜〜〜ら〜〜〜と〜〜〜知〜〜〜ら〜〜〜

く尸をわきまをうらむ  
うらみ

いひやと

うらむはまのたのしみ

まのりやうん

<sup>秘</sup>いひはうらむ

内府のたのしみ

たまはた

うらむのたのしみ

なうらむ

なうらむ

<sup>秘</sup>内府のたのしみ

<sup>国</sup>うらむ

あうらむ

うらむ

うらむ

うらむ

れはの初め



まろくしとらりまよひの山を

いけさこまつけとも

秘

乃中お調兄をいひよくりつ  
事しはしらてふまよひ  
しとらりかこ

并図

まろくしとらりまよひ

秘

角さそらりくしとらりまよひ

物とらり

松ねりてまよひの山を  
しとらりまよひ

おねりてまよひ

秘

北西の山を 南西の山を

おねりてまよひ

秘

おねりてまよひ

まろくしとらりまよひ

秘

事おらりしとらりまよひ

めつづのりき女房まにに射面は  
らんしひとふいしおーなるら  
らむらと紫じ

あつてくおしやれ

何  
下仕

くおんとまいこ

何  
柏木のゆよふと女房れた  
う〜こし

けみんま〜

秘  
けりちつ事よたはれとあふ

まりよていあ〜

何  
源氏れゆ〜くむらうれお  
なり〜兄やま〜俄〜む  
語り〜らつあ〜むらめあを  
んま〜と〜りたいた〜んまは  
と〜〜のゆ〜

〜て〜ら〜こ〜ら

ま〜り〜れ〜とせあてのゆ〜ハ柏

木の今がよきしと思ひつら心  
中しよんはよくてのうたうとせ  
じよせしといふはあまの事  
しりりよかしてあつれぬとあり  
あり

とくうつふ

秘

<sup>秘</sup>いせふぬつといふはいたならたて  
えのほらよみよといふわ

<sup>心</sup>木のむつとよとてこころを

みとやうしとよみよといふ  
し流り

<sup>身</sup>兄とよとえははあまのよ  
ゆしよとてよとてふり  
みよかして後後指圓ハ奥別  
あみよといふとあまの  
しけつげつとてあまの  
あまのゆし

<sup>秘</sup>いせふぬつといふはいたならたて

あつてみるしきつせうりたり  
をこえのほしは八世おのみぬ  
うみいよきりしせうり斗  
ふみまひまらうりしきりぬ  
半つてくさくさ今津の國のか  
ふはたし半りぶしりぬいよあひ  
うんとそのしりりりりりり  
うらとありこの作例あり  
—— 同日

<sup>何</sup>いりせと八日奉り祀りし妹兄とか  
きりいりりりりりりりりりり

伴林 諾 伴林 冊 言 兄 女 妹  
ありぬしりりりりりりりりりり  
いりあり  
乃中おむろりりりりりりりりり  
れぬといりりりりりりりりりり  
好撰りりりりりりりりりりりり  
いりりりりりりりりりりりりり

まらすまらしりまのせむに秋れ  
くまらつりぬる物まのありきりり  
られ中よいらあらまらりゆりらん  
るのあぬき白みきれは

らみんーらん

むらまらまきいりせれ山を中へいよ  
へらりやれ晴ともあらふふ  
いせのしハ紀伊國よいられ山せ  
れ山とてらりの川とへそそあ

りししー 万葉云

背の山まきへいむらつもの山  
らゆすともら<sup>打傷</sup>らへらるす  
又云まがめんらすくあみ津のつ  
りらりいせ山ハみまらりも  
<sup>打傷</sup>みらのつれとくえれ橋やれらん  
らみくぬすく人かまらりす<sup>清雅</sup>  
まらり月付くえ わたある

但書年

かすののりつせうさのよき  
—のよれみせうりきられと  
是ハ何るさたに 是らのれ  
のよもらきりれ方とひきで  
保之いそを代のちと池まよ  
母り倒し

業平元承四年辛酉  
ち辰 け年 辛酉  
寛平七年八月十五日  
御

えん

りしうむも人やりきん

心 柳本れうみまうひきり事ハ我をら

の事人やりきんぬ事いり

まうひきりみらとりていせ

しうきれもあみ

心 玉うれせりあみ

九  
我のいふ  
まこと流る  
くしそ  
むのり

らすみふつらき思ひあきらみと  
みししらみ好なり

秘 何ゆへといふきこひし

団 心あらしあり

舟 誰とみし しみせり

いりゝれゆへし

も 物本ハ兄ギトそつてふとたひり

ー中しまこい何事ゆいふまひ

りつらりし

何事しりあひ

舟 昔居れむららのをいそつらひ

て中ゆよつらふ

団 事ねまれいふつらふ

松げーの居をとらつてかろ

兄もれやうあえー始り

いよれ

よのつらふのみ

も 今ありハちやふとせし

あつらひまじしむらゝのくほん

秘 事相まのさくく清きよてら

あつらひまじしむらゝ

固 實れ兄やふれい傳てさくく

うらひくくいありらまじし

うらひのほ

何 位高しあつらひつてさくくのほれ

人わかれらさおつらひいあり

秘 拍本れ河川方ま

やうくうつらて

何 漸く切方とつらて

秘 奉ふの方へ

くろんとりて 何 恬勃

固 ちよとらつて 是もあつらて

れ春を声とおつらてあけり

固 蘭 穿靴 練 恬勃

弄 由なりととりてやまゆり

同恬勃とつらていんく 一物ま



とらんとつよししし力ふかしくし  
つらつらつら

いそいでいそいで

け柳もし一人種ア樹々々なりき  
くくくく客得のどくれよくとを  
いそ

ちねハこの中ね

<sup>秘</sup>右近ちね右近中ね

<sup>弁</sup>舞里右ちね柳もれ中ね也

<sup>心</sup>らんふも云右大持者なるもの  
あてまをいむしおやとらつめ  
くれの中ありこれとおやまはのえ  
行つてあてまききふえんねつ  
事しとしがとふたちねあの中ねい  
いつるされ中ねありりり中ね  
くかきひねてしものりり  
ふしのねてあまひきし  
今葉舞里のちねし柳もれ中ね也

よふ右のしんせい

人しんせい

<sup>秘</sup>ちねとらり

まごのしんせい

<sup>秘</sup>まごのしんせい

あしらのしんせい

<sup>秘</sup>あしらのしんせい

あしらのしんせい

あしらのしんせい

あしらのしんせい

<sup>秘</sup>あしらのしんせい

あしらのしんせい

<sup>秘</sup>あしらのしんせい

あしらのしんせい

あしらのしんせい

<sup>秘</sup>あしらのしんせい

あしらのしんせい

<sup>秘</sup>あしらのしんせい

兼 喜之の母方也

私云 云々の事今迄

にこそと

酒内氏小つての事ありと

兼之と云ふ事

或る文のにおかひ若

兼上れ兄也

おかい若の嫡子

兼之の北方の事云々

大君嫡女  
只大長女  
兼平の嫡女  
田原大君  
今君ト集  
モリ

いづれがこのみ

兼之の事

と云ふ事

媼 老姫也 清が納て

すまじき事

かれば

と云ふ事は老女

うれと云ふ事

兼上れあひ右大

是とて一の女ていふこと師を  
思ひ居るし

笑うしくならみされらるる

舞臺のまはりよ〜一人  
あつ〜

かのね〜も <sup>秘</sup> 笑みせ

女の笑つ〜と

<sup>秘</sup> 玉りられ心へ申す笑つ〜り  
けよあり〜りし〜りし〜りし〜りし

私舞臺の内はありにやほ  
月ち良のあつ〜りし〜りし〜りし  
の居りす又玉りら〜笑つ〜と  
お〜りあり〜りし〜りし〜りし  
り〜れ〜りし〜りし〜りし

き〜おち〜の <sup>秘</sup> 師

ゆ〜れ〜りし

月ち良さ〜りし〜りし〜りし  
これ争のありし

秘

けんちちちおーあきし

秘

玉うらつれ女房はひげろひに

弁の病をうらひ所を

来

女房の玉うらつの方にあり

九月おつきあきし 来

いりーろんさ

張半れつひとろ人くーとよ

れたのみろーと

秘

八月うらつー 舞とれ文句

松井儀の九月れ事あてまれ

細く月くーとあり十月よる

入のあきし事あきし九月

ときあしたり

舞里  
うらつひのひやさうー長月に命を

かくろふと我ひらまき

秘

我力較あつ九月を人の心月を

まハいよふといは月がハ由

まかりあきしゆくよみあつ月を

もつゝして一筋のいそぎのうらみ

何  
九月とい世傳し一物てれ又玉鬘

昔より季のうらてあまをありたれ

こそ教あめりなれいしうすも

とり十月廿の内うらうとさうあ

られされハ九月うらうか命とかく

ふらうし

月うらうあり

秘  
十月廿の内うらうはうらうとさうあ

おのうらうし

非

うらうい中

秘  
あつていおおひま

あつていおおひま

重考  
朝日さすひらりとしていおおひま

秘  
おおひま

花多きあかりとわかほやとあま

ありとらうらういおおひま

そゆらうらういおおひま

非  
天のうらう  
いそぎせれ  
忘れぬるま

ふれてもうたふくしむれは朝の  
きすのりりとしてわしはひらり  
むとあわれさう思ふぞいそれは  
とくけきとぬれ

むけの葉ありとくは白雲  
さうせうん我らうくは今葉を  
離のうれおを朝日のひらり  
きゆくはぬくそのくあり我ら  
よてあれは消さぬまはひらり

何 隙乃葉よとくおらひひらり  
りる衣よりけははりきり  
松玄秘ノ義とくは一又川のふ  
因事よは川女あり

何 ち 秘 何  
いけきり下たれの  
され葉のくはれは  
離をさうりあまゆりり  
梓 塩梓

清つらふさうらあひら

に

舞臺の席使と共うて又此席使

と仰りあひしこと 同日

秘

又此席使の仰りあひしこと 九福日

私云流抄は美あやまれるるるを  
共うては好美れ道風流をこそ  
くくされけりけりむさうに  
とさいたるしはよき事あり  
それとわさすことまねるる  
候し共うての美れは年よお

一たるしにりき  
ふやし草子地りけり  
れ此使の仰りあひしこと  
来れ事く不審に給已めし  
真しお候とく共美り  
とさいては愚索うりけし  
くくくくくくく



まじりの交れたき清書

秘 こそむらうらうらをかうけうらふのま

よてりうらうらえんき清書丸傳てとか

けい

このうらぬらうから

んき清書 葉上のえちうら

まれみしてまよもりのうらうら

いさぬめしてうらうらうらう

も 義孝存葉 うらうらうらうらうらうらう

いさぬめしてうらうらうらう

秘 事からまのうらうらうらう

義孝うらうと柳川ぶとく

何

明ぬとて今ハの心つゝまきひ  
しゝぬちりきりん  
私云はちよひちり

せりしゝぬちりきりん

秘

因しりりねがはるや  
たんののせに  
いとし 因日

秘

あゝちねいれぬ  
うのま何とも  
いぬいれぬ  
しりり

秘  
あゝちねいれぬ

私云 秘ノ義を

あゝちねいれぬ  
あゝちねいれぬ  
あゝちねいれぬ

秘

あゝちねいれぬ  
あゝちねいれぬ  
あゝちねいれぬ

秘

えきいぬのひやまむらじを我身  
のまつるれ事心あしあつる事  
ありくはいともあふんとか  
ちんくはいともあふんとか  
あつる事心

けいともあつる事心あつる事  
あつる事心あつる事心  
て身とららる物とらる物  
ひいひいよとて害といえけいぬ

齋

おありものいこいこいこい  
いこいこい事しりのいこいこい  
事しりてらあれいこいこい  
いこいこい

弁

あつる事の自心向いし  
あつる事の自心向いし  
あつる事の自心向いし  
あつる事の自心向いし

の

傾心比あつる事 朝夕奉養  
藁荷依陰時 霞向陽縁あつる事

露白蕪負霜

潘安仁  
田居賦

あひひはひふむひてなまるとりて  
けて花とくくとおこ

孔子曰艸庄み之智不及能衛其

足萎日向日傾葉蔽其根文集卷十

何年

艸子為存使則足被留孔子

句口ーあこり

⑤ 衛足之萎ハ二葉ニアラス

所 三

あはれとてあはれ

秘

我れ何とてハあはれとてあはれ

あはれとてあはれ

あはれとてあはれ

⑥

あはれとてあはれ

あはれとてあはれ



(11)



